発行／編集　えがおのまつり実行委員会事務局広報部

きょうされん 第49回全国大会 in 大阪 えがおのまつり

『ええやん 自分らしくいこや
つなごう えがお、いのち、そして平和』

大会速報　②号　　2026年9月23日発行

かいかいぜんたいかい 開会全体会













ようこそ大阪へ！この開会式から「えがおのまつり」始まります。
２日間、自分らしく、最高の笑顔で一緒に盛り上がりましょう！

開会あいさつ　斎藤なを子理事長



世界で命や人権が軽んじられる今、誰一人取り残さない平等な社会の実現が大前提です。本大会では２つの節目を確認します。一つは公布80年を迎える日本国憲法であり、特に９条を守り抜くことが喫緊の課題です。もう一つは国連採択20年の障害者権利条約であり、キム・ミヨン氏と平等の真髄を学びます。きょうされん結成50周年という半世紀の歩みと次世代への展望を見出すため、この大阪大会を成功させ前進の活力にしましょう。

基調報告　藤井克徳専務



世界に広がる分断と不安、今こそ憲法と障害者権利条約を高々に
東日本大震災から15年、原発は「事故」ではなく「事件」ではないでしょうか。能登の復興や熊本への連日の支援を通じ、忘れないことの大切さを感じます。やまゆり園事件から10年が経ちました。今も、優生思想の課題が問われています。また生活保護法訴訟では勝訴しても被害者救済が広がらない国の不誠実な対応を、共に見つめ直しましょう。こうした中でも、きょうされんは昨年「折り鶴プロジェクト」に取り組みました。仲間や賛助会員を増やし、平和と障害者権利条約を共に学びましょう。福祉と軍事は両立しません。

特別企画『障害者権利条約が描く障害のある人の未来』

キム・ミヨンさんは、障害者権利条約採択から20年の歩みを振り返り、「障害のある人を保護の対象ではなく、権利の主体として捉えることが大きな転換だった」と語りました。一方で、条約を批准しただけでは、暮らしは変わらないと指摘。住む場所や仕事、教育、意思決定などを自ら選び、社会の意思決定にも主体的に参加できる環境づくりが必要だと強調しました。「私たち抜きに、私たちのことを決めないで」という原則を掲げ、これからの20年は、権利を文書上の約束にとどめず、実際の暮らしの中で実現する時代にしようと呼びかけました。



グッズデザインコンクール表彰式









利用者フォーラム！！

利用者フォーラムA（泉州音頭～つくって、踊って、つながろう～）






利用者フォーラムB（笑いと歌のハーモニー～みんなの笑顔を集めて一つになろう～）





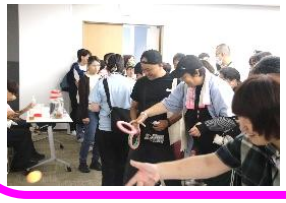
利用者フォーラムC（大阪のおもしろ“モノ”作り体験）





なんじゃランド開園！！

どなたでも歓迎の「なんじゃランド」。まずは東淀川高校吹奏楽部の演奏からスタート。常設コーナーでは輪投げ、コイン落とし、的当てなどでそれぞれで気に入ったゲームを遊んでいました。各時間でおこなわれたのど自慢大会。みなさん得意の歌を歌い、大盛り上がりでした。その後の東淀川高校の生徒さんによる舞踊はとてもきれいでした。







大会速報は「えがおのまつり」公式ホームページからも見る

ことができます。ダウンロードもできます！

Instagram

@KYOSAREN490SAKA

YouTube